

しんぶん
赤旗

日刊 ●月 3497円
日曜版 ●月 930円

南地域後援会は本町・寿・緑・若松・栄・白山・船戸・新田がエリア

連絡をいただければ「しんぶん赤旗」の見本を届けます



しらかば

日本共産党我孫子南地域後援会
発行責任者 木村 文次

本年もよろしくお願ひ致します。

2023年・明けましておめでとうございます



カイウサギ (上野動物園)



日本共産党委員長・衆議院議員 志位和夫

新年おめでとうございます。新たな100年のスタートの年。統一地方選挙勝利と強く大きな日本共産党をつくるために元氣いっぱいがんばります。

昨年11月のアジア政党国際会議で私は、戦争の心配のないアジアを築く大軍拡・大増税で戦争国家へ突き進む岸田自公政権は、アジアの大逆流

ために排他的でない包摂的な平和の枠組みをつくらうと提案し、総意で採択された総会決議は「ブロック政治を回避」し、「競争より協力を」と宣言しました。軍事で互いの垣根を高くするのでなく、対話と協力の平和の枠組みをつくる。これがアジアの平和の流れです。



100年にわたって反戦・平和をつらぬく党の出番の年です。ともにがんばりましょう。



2023年 謹賀新年



ともにがんばらにやー



日本共産党我孫子市議会議員 野村貞夫

新年明けましておめでとうございます。長く続くコロナ禍にあって皆様のご多幸をお祈り申し上げます。昨年12月15日、待ちに待った我孫子駅8番線ホームからのエレベーターが

12月11日、アピスタにて市政を語る会としらかば後援会の総会が開かれました。木村会長の開会挨拶のあと、しらかば読者の書道家の方に書いて頂いた「しらかば市政を語る会」の看板が披露されました。市政を語る会では、野村議員から20年前に松戸から我孫子に移った経緯が語られ、その後、今月投票の市長選の候補者が未定。出馬表明している現職は目玉公約なし。市議会でのインボイス制度廃止

12/11 総会と市政を語る会報告

12月11日、アピスタにて市政を語る会としらかば後援会の総会が開かれました。木村会長の開会挨拶のあと、しらかば読者の書道家の方に書いて頂いた「しらかば市政を語る会」の看板が披露されました。市政を語る会では、野村議員から20年前に松戸から我孫子に移った経緯が語られ、その後、今月投票の市長選の候補者が未定。出馬表明している現職は目玉公約なし。市議会でのインボイス制度廃止

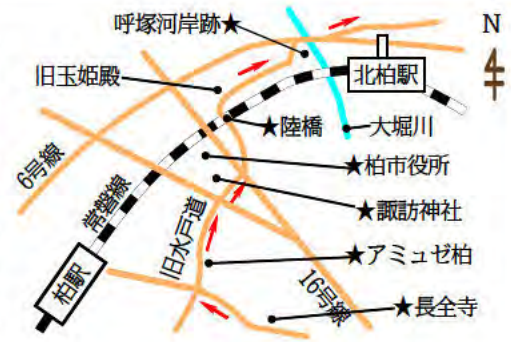


開始しました。他のホームも今年6月までには全て完成する予定です。さらに各駅停車のホームは来年までにホームドアを設置する計画です。給食費の全額無償化については、市と共に県も18才以下の第3子以降の子どもがいる家庭に無償としました。さらに市では全員千円の補助を決定しました。これは皆さんの運動の成果ですが、私も議会でも選を迎えます。本年11月には議員の改選を迎えます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。

オオバン

2023年の幕開け▼今年の干支である「兔」の話▼児童書「ガラスのうさぎ」。児童文学作家・高木敏子さんが太平洋戦争で二人の兄が出征中、東京大空襲で母と二人の妹を、疎開先の神奈川県二宮町で機銃掃射に遭い、目の前で父を失った戦禍を伝えるノンフィクション▼東京・西国でガラス工場を営んでいた高木さんの生家は空襲で壊滅的な被害を受けました。自宅の焼け跡から溶けて歪んだガラスのうさぎの置物を見つけて、空襲の激しさを実感しました▼終戦後、高木さんは新しい憲法制定のニュースに胸を震わしました▼特に戦争についての決まりの中で、二つの決めごとがまぶしく思えました▼新憲法をわかりやすく説明した文部省(当時)発行の「あたらしい憲法のはなし」という小冊子は、戦争について、次のように書かれています▼その一つは、兵隊も軍艦も飛行機も、おおよそ戦争をするためのものは、いっさいもたないということです。もう一つは、よその国と争いごとがおこったとき、けつして戦争によって、相手をまかして、じぶんのいいぶんをおおそうとしないこと(うさぎをきめたのです)(原文)▼その中で「あんぼ3がんじょ」(緑)

我孫子古道巡り 7058 長全寺から北柏駅を巡る



本年もよろしくお願ひします。今回は、長全寺から旧水戸道を歩き、北柏駅まで巡ります。

長全寺を出て旧水戸道を北に向かうと「アミュゼ柏」です。ここは「柏町役場跡」で、大正15年(1926)に、柏・戸張・松ヶ崎・篠籠田・高田・豊四季の連合体の「千代田村」が、人口6千3百人で「柏町」となりました。

街道を北に進み西に入る「諏訪」と「諏訪神社」

「柏町役場跡」で、大正15年(1926)に、柏・戸張・松ヶ崎・篠籠田・高田・豊四季の連合体の「千代田村」が、人口6千3百人で「柏町」となりました。

16号線を出て北に進むと「16号線」に突き当たります。16号線は、横浜市を起点とした首都環状道路で、千葉・野田間は昭和48年に完成しました。当時は砂利道で車が通ると砂ぼこりが舞い上がり不評でした。

16号線を過ぎると民家が少なくなり、常磐線の陸橋を渡ると結婚式場「旧玉姫殿」の城郭風の建物が見えてきます。

ここから旧水戸道は常磐線の北側になり、線路に沿った旧街道らしい、のどかな風景が続きます。

呼塚橋からは、旧街道は途切れ6号線を歩きます。橋からは、大堀川が望めます。「呼塚河岸跡」が見えます。江戸時代には、この河岸から成田詣や佐原・銚子方面の旅人や荷物を乗せ手賀沼を船で渡りました。

橋を渡り、再び旧水戸道に入ります。低地の工業団地群を過ぎて根戸の坂を上ると、やがて「北柏駅」に到着です。

(栄 関口)

参考文献「歴史ガイドかしわ」 「旧水戸街道繁盛記」 山本鉦太郎著

29年に、土村・柏町・田中村・小金町が合併し「東葛市」となりました。その後、小金町が松戸市に分離・編入、2か月後には、富勢村の大部分と宿連寺・根戸の一部などを編入し「柏市」が誕生しました。富勢村と根戸の一部は我孫子町に分離・編入しています。

街道に出て北に進むと「16号線」に突き当たります。16号線は、横浜市を起点とした首都環状道路で、千葉・野田間は昭和48年に完成しました。当時は砂利道で車が通ると砂ぼこりが舞い上がり不評でした。

16号線を過ぎると民家が少なくなり、常磐線の陸橋を渡ると結婚式場「旧玉姫殿」の城郭風の建物が見えてきます。

ここから旧水戸道は常磐線の北側になり、線路に沿った旧街道らしい、のどかな風景が続きます。

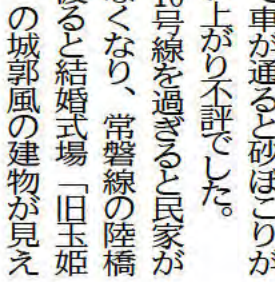
呼塚橋からは、旧街道は途切れ6号線を歩きます。橋からは、大堀川が望めます。「呼塚河岸跡」が見えます。江戸時代には、この河岸から成田詣や佐原・銚子方面の旅人や荷物を乗せ手賀沼を船で渡りました。

橋を渡り、再び旧水戸道に入ります。低地の工業団地群を過ぎて根戸の坂を上ると、やがて「北柏駅」に到着です。

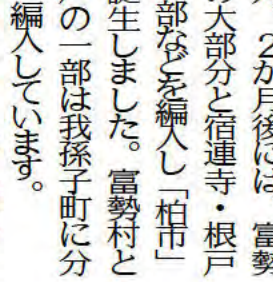
(栄 関口)

参考文献「歴史ガイドかしわ」 「旧水戸街道繁盛記」 山本鉦太郎著

諏訪神社



アミュゼ柏



呼塚河岸跡



旧水戸道の景色



常磐線陸橋



103系1000番台電車

国鉄が地下鉄千代田線乗り入れ用に新製した車両は103系1000番台。既に常磐線の主力車両であった103系をベースに、地下鉄車両の基準を満たすための難燃対策を強化、側窓の開口部を抑制、地下鉄内での騒音防止を考慮した抵抗器。そして最大の特徴は、火災発生などの非常時に先頭車から脱出可能な貫通扉を設けたことです。

外部色は宮内地下鉄6000系のアルミ車体に合わせ、灰色に常磐線のライオンカラーであるエメラルドグリーンの帯が2本入ったデザインとなり、103系で初めて2色塗り分けとなりました。また、前面の運行番号表示窓の上と、側面上側の帯に国鉄マーク(JNR)が入りました。

当時国鉄は、中央線各駅停車・総武線の一部の電車が地下鉄東西線に乗り入れていましたが、乗り入れ車両として、ほぼ同じデザイン(帯の色は中央線各駅停車・総武線のライオンカラー)

当時国鉄は、中央線各駅停車・総武線の一部の電車が地下鉄東西線に乗り入れていましたが、乗り入れ車両として、ほぼ同じデザイン(帯の色は中央線各駅停車・総武線のライオンカラー)

外部色は宮内地下鉄6000系のアルミ車体に合わせ、灰色に常磐線のライオンカラーであるエメラルドグリーンの帯が2本入ったデザインとなり、103系で初めて2色塗り分けとなりました。また、前面の運行番号表示窓の上と、側面上側の帯に国鉄マーク(JNR)が入りました。

当時国鉄は、中央線各駅停車・総武線の一部の電車が地下鉄東西線に乗り入れていましたが、乗り入れ車両として、ほぼ同じデザイン(帯の色は中央線各駅停車・総武線のライオンカラー)



「パリ島のヘリコニア」 若松・高橋祥子



301系電車

である黄色)の301系を運用していました。301系はオールアルミ製車体、空気バネ台車など、国鉄通勤型電車としては新技術を取り入れた車両でした。特にアルミ車体は国鉄初となるもので、当時はスピード重視の新幹線さえも鋼製車体であったことを考えると、301系は(当時としては)斬新な車両でした。

ただ、アルミ車体は高価であったことと当時の国鉄の財政難から、製造コストの安い鋼製車体でコイルバネの103系を地下鉄乗り入れ仕様に変更した103系1000番台を投入したのです。

そして、この宮内地下鉄と国鉄の車両新製の取り組みの差は、後に大きな問題を引き起こすことになりました。(次号へ続く)

(緑 竹内)

しらかば文芸欄 6 書道・寿 芳華



系はオールアルミ製車体、空気バネ台車など、国鉄通勤型電車としては新技術を取り入れた車両でした。特にアルミ車体は国鉄初となるもので、当時はスピード重視の新幹線さえも鋼製車体であったことを考えると、301系は(当時としては)斬新な車両でした。

ただ、アルミ車体は高価であったことと当時の国鉄の財政難から、製造コストの安い鋼製車体でコイルバネの103系を地下鉄乗り入れ仕様に変更した103系1000番台を投入したのです。

そして、この宮内地下鉄と国鉄の車両新製の取り組みの差は、後に大きな問題を引き起こすことになりました。(次号へ続く)

(緑 竹内)